

# 安来市体育協会だより

第 9 号

平成 30 年 9 月 20 日発行

## “スポーツを通したまちの活性化”



安来市体育協会  
会長 石川 隆夫

日頃皆様には、安来市体育協会の活動にご協力をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。遅くなりましたが、広報紙の発行に併せ、活動報告や私見の一端を述べさせていただきますと思います。

島根県はこのほど2029年に国体開催を目指すことを公表いたしました。さる6月18日島根県体育協会評議委員会におきまして、溝口知事から正式に決意表明があり、県体育協会としても了承したところであります。今後、県内の競技団体などの意見を踏まえ、招致への動きを具体的に進め、早ければ2019年中にも日本スポーツ協会（旧日本体育協会）と文部科学省に島根国体の開催を要望することになっております。

1982年（昭和58年）のくにびき国体以来47年ぶりの開催ということで、今後さまざまな施策が検討されると思いますが、県には選手強化に格段の努力をさせていただきたいと思っております。これまでの47都道府県中45位前後に低迷している天皇杯の順位を上げていくべく、今から小中学生の選手強化を図っていかねばなりません。（ましてや鳥取県の後塵を拝するようでは…）そして安来市から全国レベルの選手が多く誕生することを期待しております。

次に、最近騒がれているスポーツ競技の不祥事についても述べさせていただきます。関学大と日大アメリカンフットボールの定期戦に於ける反則行為や女子レスリングのパワハラ問題はいろいろとマスコミに取り上げられ、社会問題化しております。“相手をつぶせ” “ケガを負わせろ” “オリンピック4連覇の選手に練習会場を提供させない行為” など言語道断、もつての

外と言わざるを得ません。しかしながらこうしたことや似たようなことが実際に有名大学や日本を代表するような団体で起きているわけであります。指導者が選手を私物化、勝つことへの執着や世間の評価を気にするあまり、独善的指導に陥りやすいことを今回は示しているように思っております。スポーツは楽しいもの、面白いものという想いを抱き、厳しい練習に耐えて頑張ることがスポーツの本筋であります。

我が体育協会には、こうした悪い事例の報告はなく喜んでいところでありますが、我々スポーツの指導者は常に心の隅に置いておかねばならない事だと思っております。

続きまして、平成29年度活動状況について簡単に報告させていただきます。

前年の平成28年度はインターハイのテニス競技や県の中学校野球大会が安来市で行われるなど賑やかな一年でありましたが、そうした大きな大会行事がありませんでしたが、それぞれの競技部、小中学校・高校生も含め例年通り素晴らしい選手の活躍がありました。安来高校バレー部、フェンシング部の活躍はご承知の通りでありますし、国体にも10名以上の一般社会人も出場しております。その他、中国大会、全国大会にも多くの選手が出場しており、競技力向上という面では一定の成果が上がっているものと思っております。

市の共催行事であります自治会親善野球大会、なかうみマラソンにつきましては、体協の皆さんの応援をいただき、盛大に開催することができました。この場を借りましてお礼を申し上げます。

また、6月の総会におきまして3名の個人・1団体に安来市体育協会功労表彰を行わせていただきました。永年のご尽力とご苦労と栄光に対し、心から敬意を表しますとともに今後ともご指導賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、今年度も“スポーツを通したまちの活性化”というスローガンを掲げ、安来市体育協会の活動充実に努めてまいります。多くの市民の皆様のご参加とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



スポーツ指導者研修会（H30.2.18）



第30回島根県スポーツレクリエーション祭  
松江・隠岐地区フォークダンス大会（H30.7.8）

# 受賞おめでとうございます



受賞者のみなさん

## おのゆうこう 大野 祐孝様

所属 安来市グラウンド・ゴルフ協会

功績 八幡町グラウンド・ゴルフ場が平成5年に全国グラウンド・ゴルフ協会の認定コースになり、それとともに管理責任者として今日まで維持管理につとめ、そして、愛好者の増にも積極的に取り組んだ。また、広瀬町グラウンド・ゴルフ協会発足とともに27年間理事を務め、生涯スポーツであるグラウンド・ゴルフの発展につとめた功績は大である。

## たかはしことみ 高橋 琴美様

所属 広瀬町フェンシング協会

功績 広瀬町フェンシング協会設立当初から協会運営に当たり、そして事務局長として協会の運営発展につとめている。

広瀬町少年フェンシング教室の中核指導者として選手育成につとめ、多くの有望な選手を育成してきた。島根県フェンシング協会の普及部長として、市内小・中学校へのフェンシング巡回指導教室を開催し底辺の拡大にも中心的役割を担っている。

フェンシングの普及発展につとめた功績は大である。

## こはらなち 小原 己知様

所属 赤屋地区体育協会

功績 小学校4年生の夏から飛込競技を始め、現在も週5回米子市の施設でさらなる研鑽につとめている。

- ・島根県中学校総合体育大会飛込の部  
高飛込 1位 飛板飛込 1位
- ・全国中学校体育大会  
高飛込 2位 板飛込 3位 学校団体 2位
- ・第72回国民体育大会  
高飛込 7位 飛板飛込 12位

## やすぎどじょっこ (ソフトバレーボール)

代表 <sup>いま</sup>今 <sup>い</sup>井 <sup>あき</sup>章 <sup>お</sup>雄様

所属 安来市バレーボール協会

功績 生涯スポーツを通じて楽しめるスポーツを環境作り、明るく豊かな地域社会づくりに貢献すると共に老若男女が手軽に楽しめるソフトバレーボール活動の実践を提唱し、活動の機会を提供することにより、ソフトバレーボールの普及と発展に寄与し、また、参加者の健康保持と増進、体力の向上並びに交流を深めることにつとめた功績は大である。

平成3年にチーム「やすぎどじょっこ」を結成し大会の企画運営を行い、平成16年からは「どじょっこ交流大会」も兼ね、現在では山陰で最大の大会となった。

## 安来市体育協会役員名簿

平成29・30年度

役職	氏名	所属
顧問	近藤 宏樹	安来市長
会長	石川 隆夫	
副会長	國重 光美	安来地区選出
副会長	山本 誠明	伯太地区選出
副会長	本山 禎彦	広瀬地区選出
理事長	森田 健平	競技部【部長】
副理事長	木戸 精一	少年育成部【副部長】
副理事長	遠藤 泰史	地域振興部【部長】
理事	宮本 功二	指導者部【部長】
理事	永見 健	競技部【副部長】
理事	嘉本 祐一	競技部【副部長】
理事	稲田 良造	競技部【副部長】
理事	山本 敏熙	競技部【副部長】
理事	川津 邦雄	競技部【副部長】
理事	野坂 悦由	地域振興部【副部長】
理事	須藤 操	地域振興部【副部長】
理事	野坂 啓二	少年育成部【部長】
理事	井上 進	少年育成部【副部長】
理事	山本 武士	学識経験者(広瀬地区選出)
理事	梅瀬 倫住	学識経験者(伯太地区選出)
理事	原田 吉郎	学識経験者(安来地区選出)
監事	矢田 和子	競技部選出
監事	近藤 佳人	地域振興部選出

## 安来市スポーツ少年団本部役員名簿

平成29・30年度

役職	氏名	所属
本部長	野坂 啓二	安来中央スポーツ少年団(複合)
副本部長 (3名)	木戸 精一	安来剣道スポーツ少年団
	井上 進	島田スポーツ少年団(野球)
	大久佐明夫	市民生活部次長 兼 文化スポーツ振興課長
委員 (8名)	矢淵 友則	十神キッズスポーツ少年団(野球)
	西村 陽介	広瀬町フェンシングクラブ
	石田 陽一	広瀬TC(テニスクラブ)
	谷口 広行	レイダース
	金森 真一	布部クラブスポーツ少年団(バレーボール)
	福田 満	セレジェイラ安来FC(サッカー)
監事 (2名)	寺本 輝夫	安来市空手道スポーツ少年団
	太田 真英	広瀬少年剣士会
	野々内陽平	安来MBC(バスケット)

## 寄稿



安来市スポーツ少年団  
本部長 野坂 啓二

現在、安来市スポーツ少年団では34団体、約755人の子どもたちが元気に活動しています。野球・バレーボール・剣道・テニス・サッカーなど活動内容や競技は異なりますが、子どもたちが地域の中でスポーツを楽しんでいます。

「スポーツ」の語源は「遊び」です。自然に始まった「遊び」の中でお互いにルール決め、これに従って行動することで、それぞれの競技が成り立っています。スポーツだけのことではありませんが、ルールを守ってこそ、スポーツをする人も観る人も心からスポーツを楽しむことができます。

少し前のものですが、スポーツ少年団の機関誌に掲載されていた、スポーツ少年団でも、学校の部活でも保護者にとって非常に参考となる記事を紹介しておきます。

### 「子どもが伸びる保護者とは？」

～子どもと指導者・保護者の関係を考える～

#### \*保護者の心構え4カ条

◆指導方法やチームの戦術・戦略には口を出さない  
原則的に保護者は口を出すべきでない。自分がその競技を経験したことがあればつい言いたくなってしまいかもしれないが、それをグッと

我慢し、子どもには絶対言わない。

#### ◆「縁の下の力持ちであれ」

保護者のあるべき姿は「縁の下の力持ち」。特にスポーツ少年団では指導者と協力して子どもたちのより良い環境作りをサポートすることに尽きる。

#### ◆保護者は子どもの牽引車ではない

子どもの「やりたい」という気持ちを保護者が前に立って引っ張るのではなく、行きたい方向へ走る子どもの斜め後ろから静かに伴走しながら支えてあげること。

#### ◆「転ばぬ先の杖」になりすぎない

スポーツでは試合に負けたり、失敗することで学ぶことがたくさんある。ケガにしてもそうで、大ケガは避けなければならないが、小さなケガであれば、自分にとっての「できる」「できない」を知る上で経験しておくことが大切。見守る方からすればハラハラするが、転ぶ前に支えてしまえば子どもはいつまでたっても転び方を学べない。

保護者のことについてあれこれと紹介しましたが、指導者と保護者の信頼関係が確立されていることが前提となります。指導者は保護者の皆さんと日頃から意思疎通を図り、情報発信に努めてもらいたいものです。

スポーツ少年団の主役は子どもたちです。この実現に向け、安来市スポーツ少年団本部は各団体の皆さんと共に、安来市体育協会をはじめ地域の方々の応援を頂きながら、子どもたちのスポーツ活動を支えて行きたいと思います。

## 活動内容&紹介

### 何 番 目 ?

バドミントン部 富田 益司

最近特に運動をすることが自分の身体に良いと叫ばれています。先日のテレビでは少し汗ばむくらいの運動を（早足で歩く）一日30分、週3回はやりなさいということでした。

しかし普段は運動のことなどあまり真剣に考えない人もいます。まあいいか位の順番のようです。だ

が突然に体が動かなくなっちはじめて「あっ」自分の身体には運動が必要だったのだと気がついて遅いのです。子供は学校で学び、大人は仕事をして自分の生活を守り家族を守っていく。当たり前なのですが、大変なことは承知の通りです。その仕事が出来るのは自分の健康があるからということも誰でも知っています。そして健康だったからスポーツが出来たとも言えますが、スポーツをしていたから健康だったとも言えるようです。

今日の24時間はすべての人が初体験の一日です。自分にしか出来ない一日の物語を積み上げながら自分の人生を味わうことが出来ます。出来ることならば少しでも運動を取り入れて、心身共に健康でより良い人生の物語を作り上げたいと誰もが願うのではないのでしょうか。

## 生涯スポーツ、ビーチボール

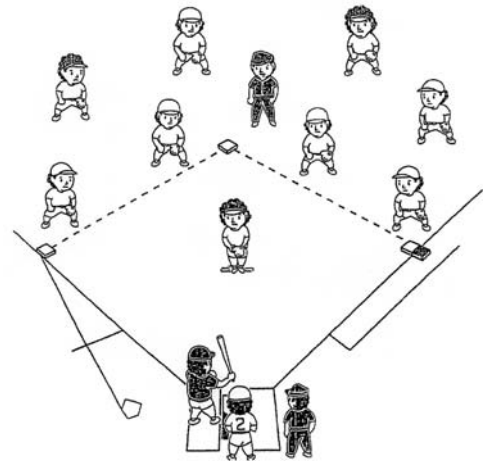
安来市ビーチボール協会 岩崎多美子

安来市ビーチボール協会です。皆さんはビーチボールという生涯スポーツをご存知ですか？「いつでも、どこでも、だれとでも」をスローガンに、年代を問わず手軽に、体力に応じて楽しめるコミュニティスポーツとして作られました。バドミントンコートを使用し、1チーム4人で行います。ボールは競技用のビーチボールを使うので当たっても痛くありません。安来では毎年2回、6月と12月にふれあい大会を開催しています。運動不足の方、どんなものかな？と思っている方、一緒に緑のボールを追いかけて心地よい汗をかいてみませんか？大きな声を出して笑ったりするので、ストレス発散にはもってこいのスポーツです。練習は毎週木曜日、PM8時～10時、島田小学校の体育館でしています。

興味のある方、見学・参加大歓迎!!  
是非お待ちしております。



安来市でも交流センター・自治会・職場等中心に普及を図りたいと思っています。



## 「剣道で子供たちに伝えたいこと」

安来剣道スポーツ少年団指導者 木戸 精一

今から14年前私が全国の仲間12名とモスクワへ剣道遠征に行った時のことです。

遠征も10日間の最後の日、ロシア選手とのお別れパーティーがありました。

その席上ロシアの一選手がスピーチを始めました。「剣道は、国、宗教、文化など異なっても『どんな相手に対しても尊敬と感謝の気持ちを持つことが大切である。』と習いました。まさにこの精神は平和の精神そのものです。私は、剣道を上達し子供達に剣道を通じてこの平和の精神を教えることでロシアの平和に貢献したい。」これを聞いて、私は『剣道が平和に役立つ？』始めはピンと来ませんでした。

いままで日本で稽古をしていて『剣道が平和に役立つ！』などと考えてもみなかっただけに不思議に思えた言葉でした。当時ロシアでは、テロが頻発していてこの遠征の1か月前にもロシア南部の南オセチア共和国で学校がテロ集団に占拠され子供や保護者が何百人も犠牲になった事件がありました。そんなこともありこの選手の発言になったのではとしばらくしてから思いました。

私にとって正に「目から鱗」の言葉でした。

それから私の剣道観が変わりました。剣道はただ、稽古をするのではなく、剣道の成り立ちなど勉強しロシアの選手のようにこの精神を子供たちに伝えていくことが私の役割だと思うようになりました。

時代はさかのぼって、1543年種子島にポルトガル

## 【ジョイフル・スローピッチソフトボール】の紹介

### ソフトボール部

【ジョイフル・スローピッチソフトボール】は打って・守って楽しむスポーツです。

内外野を問わず守れる10名の選手がいるほか、投球時に腕を回転させるウインドミル投法は禁じられており、打者の身長の高さを最高点とする山なりの投球が義務付けられています。

又、打者が打つ前の離塁禁止、弾力性のあるボール使用、接触プレー防止のため走者用のホームベースなど安全を重視したルールもあります。

ジョイフル・スローピッチソフトボールは初心者の方から女性・子供・お年寄りまで経験の有無を問わない、誰でも・楽しく・安全に・いつでも・どこでも・簡単にできる幅広い生涯スポーツです。

人が鉄砲をもたらした戦国時代の戦にも鉄砲が威力を發揮し、刀では太刀打ちできなくなってきた。このような時代、劍聖・上泉伊勢守信綱は劍術と禅を修行し人を斬る殺人刀ではなく、刀を使わずに相手に勝つ無刀取りという「人を生かし、自分も生きる」という新陰流を編み出しました。そしてこの新陰流を柳生石舟斎に伝授し、柳生石舟斎は新陰流をさらに発展させた柳生新陰流を名乗り世にその名をとどろかせました。

この頃、徳川家康は、権力をほぼ手中にし、戦国時代を終わらせ平和な国家を築きたいと考えていました。柳生新陰流は、そんな徳川家康の耳に入り、「柳生新陰流の無刀取りを拝見したい」と言い、石舟斎は家康の前で息子の宗矩を相手に見事な無刀取りを披露しました。家康は感動しその場で「わしの兵法指南を頼みたい。」と言ったが、石舟斎は自分は老齢のため、息子の宗矩を推薦しました。

改めて、家康は柳生宗矩に「柳生新陰流の極意は？」と問いました。宗矩は、「柳生新陰流は、人を活かす劍、天下の劍、すなわち治国平天下の劍と心得ています。」と答え家康は大いに満足し、柳生宗矩は徳川家康の兵法指南役に抜擢されたのです。

そして、柳生宗矩は、「殺人劍・活人劍」の教育理念をさらに発展させ「機を觀るところ」の養成こそが劍術稽古の目標であるとし、武士の人格を修養する武芸の道を開いたのです。

ロシアの選手がどこまで理解しての発言であったかはわかりませんが、歴史を調べてみると確かに劍道の成り立ちは、平和につながるものであることが良くわかります。

昨年ロシアのサンクトペテルブルグに行き劍道の交流稽古を行いました。ロシアの選手の礼儀正しさには改めて感服させられました。



一生懸命通訳してくれた  
アンナ・イグナシナさんと  
(昨年8月サンクトペテルブルグにて)

## 全国大会出場!!

野球部 理事長 高塚 浩二

野球部所属のH. B. C (広瀬ベースボールクラブ) は、結成15年目で島根県大会初優勝しました。中国地区大会では鳥取県代表、岡山県代表との接戦を制し、みごと中国地区代表として「高松宮賜杯第62回全日本軟式野球大会 (1部)」に出場することになりました。

全国大会は10月19日(金)~21日(日) 奈良県で開催されます。

応援よろしくをお願いします。



## 十神地区体育協会行事

今年もベタンク、グランドゴルフ、ニュースポーツと春から続いたイベントも夏の暑さを避け一息ついたところですが、十神体協では、既に秋のイベントの準備に向け始動を開始しています。

9月のウォーキング大会を始めに、年度最大の行事である体育大会、そして今年2回目のグラウンドゴルフ、ニュースポーツ大会と12月まで続きます。

十神地区の皆さん、スポーツを楽しみ、良い汗を流しましょう。挙ってご参加お願い致します。



十神地区体協 (7月 ニュースポーツ大会)

